

ベトナム

米中対立により経済に大きな恩恵

SMBC Asia Monthly

日本総合研究所 調査部

副主任研究員 塚田 雄太

E-mail: tsukada.yuta@jri.co.jp

■対内直接投資が増加し、米国向け輸出も拡大

米中対立は、今日の世界経済における最大のリスクとなっている一方、アジア新興国・地域経済には代替輸出や生産拠点移管を通じて、プラスの影響も与えている。実際、米中間で関税引き上げの応酬が本格化した昨年7月以降、アジア新興国・地域では、多額の対内直接投資の流入や米国輸入における存在感の高まりが見られた。これを国・地域別にみると、とりわけベトナムが最もこの恩恵を被っていることを確認できる(右上図)。

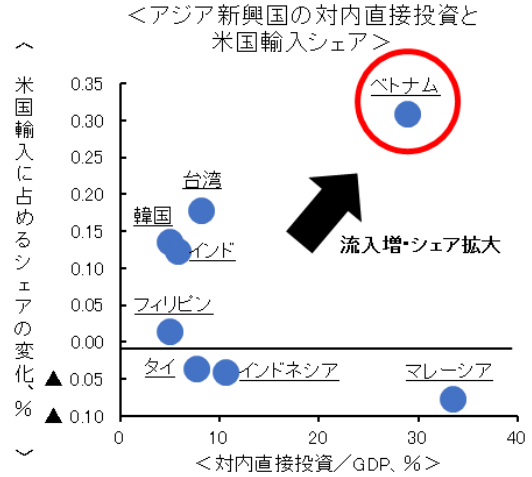
2018年7月～19年6月のベトナムの対内直接投資(認可ベース)は金額で174.1億米ドル、対名目GDP比で28.9%となった。これは2017年7月～18年6月(以下、前期)との比較では▲18.0%の減少であるものの、前期に日系企業による大型開発案件やCPTPP発効を見越した投資急増といった特殊要因があったことを勘案すると、高い水準を維持している。また、米国輸入に占めるベトナムのシェアも前期から+0.3%ポイント拡大した。

■中国との近接性と競合的輸出関係が背景

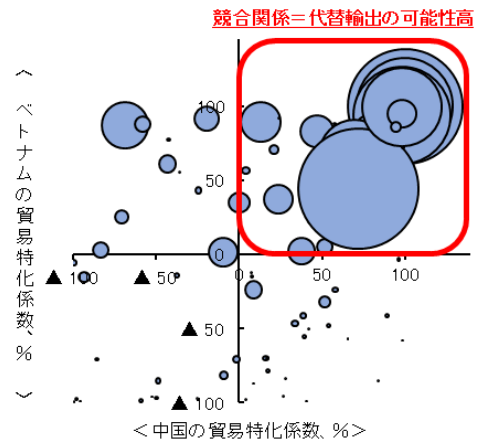
このようにベトナムがアジア新興国・地域の中で最も恩恵を被っている背景として、以下の2点を指摘できる。第1に、中国と地理的に近接しているということである。米国の関税引き上げによって、多くの企業が中国から生産機能を移す必要が生じた。しかし、部品・材料の仕入れ先や川上生産部門が中国に残る例も少なくない。そのため、近接したベトナムは高い優位性を持っているのである。第2に、元々対米貿易において、中国とベトナムで競合する輸出製品が多かったことが挙げられる。実際、2017年のベトナムの対米輸出金額の92.8%が中国と輸出競合的な品目であった(右下図)。これは、中国から米国に輸出できなくなった際に、多くの製品についてベトナムが肩代わりできる素質があることを意味している。

■グローバル・サプライチェーンへの繋がり深化を

こうした対内直接投資の流入や代替輸出は、ベトナムの足元の成長率を押し上げるだけでなく、グローバル・サプライチェーンに深く関わることで中長期的な安定成長を実現するまたとない機会も提供している。この機会を活かせるかどうかは、ベトナム政府がさらに構造改革を進め、より良い国内ビジネス環境を整備できるか否かが大きなポイントとなろう。



＜中国とベトナムの対米貿易関係＞



(出所) UN COMTRADE  
 (注1) 貿易特化係数=(輸出-輸入)/(輸出+輸入)\*100  
 (注2) HSコード2桁。  
 (注3) バブルは2017年のベトナムの対米輸出額。

当レポートに掲載されているあらゆる内容の無断転載・複製を禁じます。当レポートは単に情報提供を目的に作成されており、その正確性を当行及び情報提供元が保証するものではなく、また掲載された内容は経済情勢等の変化により変更される事があります。掲載情報は利用者の責任と判断でご利用頂き、また個別の案件につきましては法律・会計・税務等の各方面の専門家にご相談下さるようお願い致します。万一、利用者が当情報の利用に関して損害を被った場合、当行及び情報提供元はその原因の如何を問わず賠償の責を負いません。